

第一表

重要物資の国際比価 (31年9月末現在)

(注) 括弧内は前月比騰落

品目	単位	区分	日本		米 国	英 国	そ の 他	
			邦貨建	外貨建				
織 維	綿糸(20番手)	封度	M	¥ 207.5	¢ 59.3(+2.4)	¢ 64.0~65.0 (-1.0~-1.0)	¢ 60.0(0)	香港41.3(+0.6)伊55.5(-1.1)
			E	190.8	5.30(0)			
	綿織物(2003)	碼	M	55.5	15.4(-0.2)	16.5(0)		香港14.0(0)
			E	54.0	15.0(0)			
	人絹糸(ビス120D)	封度	M	268.0	7.44(+0.2)	86.0(0)	62.9(0)	伊 82.4(0)
E			180.4	50.1(-0.9)				
スフ糸(30番手)	"	"	150.0	41.7(0)	76.2(0)	63.0(0)		
鉄	銑鉄(鋳物用2号)	噸	Q	28,500	\$ 79.2(0)	\$ 62.2(0)	\$ 47.2(0)	ベルギー67.0(0) フランス59.5(0)
			E	44,700	124.2(0)	111.9(0)	96.0(0)	ベルギー105.0(0) 西独89.7(0)
	棒鋼(19ミリ)	噸	M	93,000	258.3(+63.9)	122.5(0)	119.5(0)	フランス113.0(+5.0) 実勢115.0~
			E	54,000	150.0(0)			西独118.0(0)
鋼	厚板(12ミリ)	"	Q	50,700	140.8(0)	106.9(0)	93.8(0)	109.5(0)
	薄板(1.6ミリ)	"	Q	58,700	163.1(0)	103.0(0)	103.3(0)	西独139.5(0) フランス153.8(0)
非鉄金属	電気銅	封度	Q	168	¢ 46.6(0)	¢ 40.0(0)	¢	¢ベルギー 38.5(-0.1)
			M	245	68.1(+12.6)	36.5(-1.6)	36.8(-1.2)	
	電気亜鉛	"	Q	64	17.9(0)	15.8(0)	M14.6(+0.1)	Mメキシコ 14.3(-0.2)
			E	50~59	14.0~16.4(0)	13.5(0)	M12.0(0)	Mメキシコ 11.5(-0.3)
	錫地金	"	Q	372	103.3(+1.2)	102.6(+2.6)	M99.0(+2.5)	Mシンガポール 95.3(+0.4)
			E	88~95	24.6~26.5(0)	27.1(0)	24.6(0)	カナダ 24.5(0)
セメント	噸	M	6,000	\$ 16.7(-0.8)	21.0~23.5(0)	\$	西独16.5~18.3(0) フランス15.8(0)	
		E	6,300~6,750	17.5~18.8(0)		14.0(0)	西独13.5~14.5(0)	
化学製品	硫酸(安)	噸	E	21,067	58.5(+0.4)	42.0(-1.0)	53.0(+1.0)	西独50.0(0) イタリア49.0(-3.0)
	苛性ソーダ(固型)	"	M	45,500	126.4(+9.7)	82.0(0)	78.0(+2.0)	
	レーヨンパルプ	"	Q	80,799 ~81,571	224.4~226.6 (0)	CIF 209.0(0)		カナダ C I F 200.0(0)
動植物製品	大豆原油	ドラム	M	27,500	76.4(0)	51.5(+0.5)		
	生ゴム(RSS3号)	封度	M	106	¢ 29.4(-0.6)	¢ 31.9(-1.6)	¢31.8(-1.2)	¢シンガポール 29.2(-0.7)
	原皮(牛)	"	M	79	21.8(0)	16.0~17.5 (+0.5~+1.0)		
燃料	石炭(粘結炭)	噸	M	6,750	\$ 18.8(0)	\$ 12.3~12.5(0) C&F 30.0(0)		

備 考

1. 区分欄、Qは建値、Mは市中価格、Eは輸出価格。

2. 織 維

(1) 海外価格はロイター電などによる。

(2) 香港綿布は2003番相当のもの。

(3) 人絹糸海外価格は150D価格を採用(我国での150Dの生産取引は僅少)

(4) 英国のスフ糸は36番手単糸綿紡式によるもの。

3. 鉄 鋼

(1) 日本のQ(生産者価格)は銑鉄では富士製鉄10月積建値、鋼材では八幡製鉄11.12月積建値より全国平均運賃銑鉄1,000円、鋼材1,300円をそれぞれ差引いて算出。

(2) 海外は銑鉄

ベルギー 鋳物用高磷銑ミュッソン(基準地)渡し

フランス " ロングイ(")渡し

英 国 ベーシック銑

(3) 英国は公示価格よりわが国同様運賃を差引いて算出。

(4) 米国は U.S スチール社発表値。

(5) 西独は公示価格から取引税4%を差引いた。

(6) 厚板は米国、英国9~38ミリ、フランス加盟国9.5~25ミリ。ベルギーはトーマス鋼。

(7) 薄板は米国1.7ミリ、英国3ミリ以下、西独、フランスには寸法エクストラそれぞれ7.93ドル、4.35ドルを加算。

4. 非鉄金属

(1) アルミの国内建値は精錬業者販売価格。

(2) 亜鉛、アルミ国内建値の安値は輸出原材料向特価。

5. セメント

フランスは包装代を含まない。

6. 化学製品

(1) 苛性ソーダはアンモニア法製品価格。

(2) レーヨンパルプ国内価格は7~12月期建値。

海外価格は7~9月期CIF日本価格。

7. 動植物製品

(1) 生ゴムの英相場はRSS1号。

(2) 米国原皮銘柄バックスライト紐奇現物相場、国内相場は取引単位が枚数のため概算。

8. 燃料

内外とも約8,000 cal 国内炭は本州特定製鋼所向30年度炭売炭価。

第二表

海外価格を100とするわが国価格指数の推移

(注) 備考は第1表に準ず。卸売物価指数は昭和25年6月基準指数の比較。

品目	区分	基準国	28年9月	29年9月	30年9月	31年3月	31年6月	31年7月	31年8月	31年9月
綿糸	M	米	105.3	90.5	83.9	83.0	87.0	80.2	87.5	92.7
綿織物	M	"	102.5	86.2	84.8	91.0	~88.3 95.5	90.9	~86.2 94.5	~91.2 93.3
人絹糸	M	イタリ	91.9	66.7	65.5	83.3	91.0	91.5	90.0	90.3
スフ糸	M	英	74.2	57.5	59.7	61.7	69.8	64.4	66.2	66.2
棒鋼	Q	ベルギ	117.2	89.4	108.6	110.3	118.3	118.3	118.3	118.3
厚板	Q	西独	107.1	91.2	108.3	118.4	128.6	128.6	128.6	128.6
電気銅	Q	米	135.0	126.9	102.0	102.4 ~109.6	112.6	119.8	116.5	116.5
硫酸	E	西独	126.2	118.4	115.1	118.5	120.9	119.3	116.3	117.0
苛性ソーダ	M	英	179.1	136.9	134.1	155.4	153.6	153.6	153.6	162.1
レーヨンパルプ	Q	カナダ	123.4	116.8	115.4	109.5 ~111.0	109.5 ~111.0	109.5 ~111.0	112.2 ~113.3	112.2 ~113.3
大豆原油	M	米	121.0	182.9	185.3	129.2	148.4	150.8	149.8	148.3
生ゴム	M	シンガポール	115.1	115.0	110.9	103.4	103.6	101.7	100.3	100.7
原皮	M	米	172.3	149.4	138.9	121.7 ~125.3	132.7 ~141.3	145.3 ~136.3	140.6 ~132.1	136.3 ~124.6
卸売物価指数	}	米	141.0	136.0	133.4	134.6	135.4	135.9	136.8	—
		西独	130.8	126.1	122.5	122.8	126.1	126.2	126.7	—

解 説

9月中の海外主要商品市況は、生ゴム、銅など下落の一方、小麦、綿花、皮革、錫、鉄鋼などは騰貴し、全般に区々な動きをみせたが、値上りしたのも微騰のものが多く、また砂糖、亜鉛などももち合いに推移し、頃来の騰勢歩調はこことも一服模様に見られる。なお国際商品相場指数をみると、スエズ運河問題を契機に一時騰勢を示していたが、すでに前月々央以降おむね落ち着いたが、当月の英国ロイターはもち合い、米国ダウジョーンズも0.3%の微騰にとどまつた。

一方わが国は繊維、鉄鋼、非鉄、化肥、燃料など軒並み騰勢をつづけ、卸売物価指数は9月中1.8%高と前月(1.2%上昇)を上回る騰貴率を示した。このように海外市況の騰勢一服に対して、わが国は依然強調をつづけたため、国際比価関係は総じて悪化の傾向を一段と強めた。

(1) 繊維

国内の繊維市況は、在庫増加傾向という弱材料があるにもかかわらず、秋冬もの需要の據頭、スエズ問題の長期化による東南ア向け輸出引合いの活況などから綿糸、人絹糸の市中価格およびスフ糸の輸出価格が強調をみせた。

他方、海外価格は、香港綿糸の微騰を除いては米国、イタリーの綿糸が低落、その他人絹糸、スフ糸、綿織物は各国とももち合い、総じて凡調に推移した。このため繊維の対外割安の幅はやや縮小、特にイタリー綿糸との比較では割高の幅をかえつて増大しているのが注目された。なおいわゆる二重価格の関係(国内価格に対し輸出価格割安)は

依然変わらないが、スフ糸、綿織物はその幅を縮小したのに対して、綿糸、人絹糸は逆にやや拡大した。

(2) 鉄鋼

米国は前月賃上げにより鋼材価格を大幅値上げした後だけに、当月は各品種とももち合ったが、基調は依然強く、くず鉄価格はトン当り58.83ドルと年初来の最高値を示現した。また、西欧においても米国、印度、アルゼンチン、日本などの買付増加から、シューマンプラン輸出カルテルは、トン当り2~8ドル方値上げを決定、引続き活況をみせている。しかし、西独における建築制限、フランスにおける物価釘づけの強化(対象品目拡大)、更にまた英国も需要家筋の買一巡からようやく西欧の輸出余力が増大しつつあるのは注目を要する。

一方わが国は投資需要の活発に加えて、スエズ問題にからむ世界的船舶手当難見通しから、思惑筋の買進みもあり、市中相場は暴騰、建値も線材、磨棒鋼はそれぞれ規格料値上げの名目で実質的にトン当り5.5~8.3ドルの引上げが行われた。この結果、国際比価関係は海外の堅調にもかかわらず、わが国の騰勢が大きいと、引続き割高幅を拡大した。

(3) 非鉄金属

海外市況は総じて落ち着いた模様をみせた。銅は生産が順調で需給は緩和に向いつつあり、市中相場も小幅下押し、米国の輸出制限も緩和をみた。また、鉛、亜鉛、アルミも英国鉛の微騰を除けば各国とももち合い乃至下押しを示した。ただ、錫のみは生産地が偏在し、かつ消費地へ長途の海上輸送を要する事情もあり、主としてスエズ問題をめぐ

る思惑から月中やや目立つて高下し、結局前月末より若干高い水準で越月した。これに対しわが国は、建値では錫が海外高に追随して小幅引上げられたほかは、格別の動きがなかつたが、市中相場では銅が需要益々旺盛の折柄、輸入の不円滑も加わり急騰、海外に対する割高幅を一段と拡大したのが注目される。

(4) その他の商品

原皮はわが国のもち合いに対して、米国は屠殺関係の従業員ストのため品薄をよんで騰貴し、またセメントは海外

のもち合いに対して、わが国は統落したため、それぞれ割高幅を縮小した。

しかし、生ゴムは内外とも下押したが、わが国は小幅にとどまり、また苛性ソーダは海外よりわが国の値上り幅が大きいため、いずれも国際比价関係は悪化した。なお、硫安はわが国、英国ともに騰貴し、英国比ではやや好転したが、米国、イタリー、西独はもち合い乃至低落をみせたため、これら諸国に対しては割高の度をかえつて拡大した。

日 誌 (昭和31年9月)

国 内

- 4日 ○政府、非集中指定通貨(カナダ・ドル、スイスフラン、西独マルク、スエーデン・クローネ)に関する為替相場の自由化決定
- 政府、ビルマ政府との間に賠償第2年度(昭和31年度)の実施計画を決定
- 5日 ○本行、ワシントン輸出入銀行との間に第6次綿花借款契約調印
- 6日 ○都市8行、大阪証券金融会社に対する協調融資金利1厘引上げ(現行2銭1厘)
- 7日 ○本行、第6次綿花借款の国内金利決定
- 8日 ○政府、アルゼンチン政府と通商交渉仮調印
- 12日 ○全国信用金庫協会、振興預金利率引下げ
- 13日 ○鉄鋼三社に対する協調融資金利1厘引下げ(現行日歩2銭1厘、9月中期限到来手形より実施)
- 本行政策委、ドイツ連邦共和国通貨表示の手形を

- 引当とする外国為替引当貸付の利子歩合(日歩1銭5厘)およびドイツ・日本特別決済勘定にかかるとるアメリカ合衆国通貨表示の手形を引当とする同利子歩合(日歩1銭4厘5毛)を日歩1銭3厘5毛にそれぞれ改訂(13日より実施)
- 14日 ○全信連、預り金利率引下げ(10月1日以降実施)
- 20日 ○政府、不動産銀行設立方針決定
- 政府、ギリシャ政府との間に本年度貿易計画決定に関する口上書交換
- 25日 ○政府、下期外貨予算を決定
- 26日 ○信託協会、指定金銭信託合同運用口の予定配当率の引下げ実施
- 27日 ○繊維品輸出会議(米国市場問題特別委員会)綿製品の対米輸出に関する自主調整措置の基本方針決定

海 外

- 2日 ○パキスタン、モハメッド・アリ首相辞任、内閣総辞職
- 5日 ○アイゼンハワー大統領、相互援助計画諮問委員会委員長にフェアレス前U・S・スチール会長を任命
- 西独レンダー・バンク公定歩合を従来の5.5%から5%に引下げ、6日から実施
- 6日 ○パキスタン、東パキスタン新内閣成立
- 7日 ○アルゼンチン中央銀行、外国企業の送金制限緩和を発表
- 10日 ○スペイン銀行、公定歩合を従来の3.75%から4.25%へ引上げ
- 11日 ○ガット会期間委員会ジュネーブにて開会(4日間)
- 米連邦関税委員会、日本製枕カバー輸入制限に関する公聴会開催
- 12日 ○パキスタン、スラワルディー氏新首相に就任、新連立内閣の成立

- 13日 ○インド、エジプトとの貿易円滑化のため50百万ルピーの借款供与
- 15日 ○中共、党八全大会を挙(27日まで)第2次経済5か年計画案を討議
- インドネシア、ソ連経済援助協定(借款1億ドル)成立
- 20日 ○アルゼンチン、世界銀行および国際通貨基金へ加入
- 中共・ネパール間に友好ならびに西藏地方とネパールとの通商交通協定調印(於カトマンズ)
- 23日 ○英仏両国、スエズ運河問題に関し国連に提訴
- 24日 ○世界銀行、国際通貨基金第11回年次総会および国際金融公社創立総会ワシントンにて開会(28日まで)
- エジプト、スエズ運河問題に関し国連に提訴
- 28日 ○アイゼンハワー大統領、毛織物関税引上関係法案に署名